



過去のイスラム過激派等のテロとその問題点と対策

— 図上訓練で現実的な対策を考案しましょう —

2017年9月

軍事戦略評論家（軍事・情報戦略研究所長） 西村金一

近年、中東やアフリカで頻発しているイスラム過激派による過激なテロが、欧州にも拡大している。これらは、特殊部隊の戦闘行動と表現してもよいくらいだ。2015年11月の仏国パリの同時多発テロは、イスラム過激派の多数の戦闘員が数個チームを編成して、数か所を同時に襲った。ターゲットは、国家的イベントや重要施設ではなく、警備が手薄で攻撃が容易でありかつ多数の犠牲者の発生が予想されるソフトターゲットを狙ったものであった。紛争地域で見られることが、平和的な都市パリの市街地で起こったことで、それまでの国際テロに対する認識を一変させる事案であった。

日本でも同様のテロが行われる可能性が出てきた。ISは、日本も攻撃対象だとしている。また、我が国は、3年後には東京オリンピックなどの国際的イベントが控えている。ISを爆撃している有志連合国のトップやそれらの国のスター選手が集まるこれらのイベントが、国際テロの対象となるのは明らかである。日本国内では、イベント開催の数年前から当日まで、オリンピック会場、都市の交通機関・重要施設、東京ドームなど人が集まる施設（ソフトターゲット）、発電所、化学薬品工場など大きな被害がしやすい施設が狙われるだろう。

予想されるテロは、基本的に中東、アフリカ、欧州でこれまで発生しているテロに類似しているものであろう。ISが日本に持ち込むことができ、大型で威力の大きい兵器を使った、もっと大掛かりなテロを起こす可能性も予想される。

これらへの対策を案出するにあたって、日本でのテロ対策に参考となるイスラム過激派などによる過去のテロ事例について、まず、対応の問題点と教訓を導きだす。そして、イスラム過激派などが保有し日本に持ち込める兵器を使用するテロはどのような様相になるのかを考察し、その結果を踏まえて、自治体、企業の皆様がそれぞれ対策を導きだすことが必要です。

1. テロ対策を考案、現実的な対策を考案するには？

- ▶ 「軍事作戦と同様の分析手法」が必要
- ▶ より現実的かつ具体案を導きだすために
 - 「敵情見積（敵の研究）」（考え得る最大限の脅威まで見積もる）
 - 「図上訓練（研究）」を実施すること
- ▶ どんなことを仕掛けてくるのかを知る（敵情見積－敵の研究）
 - ・新たなテロの脅威を認識する
 - ・「過去のテロ事案」を分析

- ・将来のテロを予測する
- 敵のことを知らない対策などありえない

(1) 新たなテロの脅威は

テロの様相が変化している

- 戦場で起きていることが、平和な都市で起こっている
- 今風に言うと、戦場場面を切り取って、
 - ・平和的な都市にコピペしているようなもの
 - ・そこで、兵士達が、無防備な人々に乱射している
- ISは、高度な軍事戦略を駆使している
- ひとたびテロが発生すると、治安機関が出動する前に、多くの被害が発生する

(2) 過去のテロ事案問題点と教訓

近い将来に生起する可能性があるテロを想定するには、軍事的な視点からイスラム過激派及び左翼テロ組織による過去のテロ事案の中から、将来起こりそうで教訓となる事案を選んで考察（対処の問題点と教訓）する必要がある。

具体的な例として、

- ①不意を衝かれたペルー日本大使館公邸占拠、
- ②武装勢力によるアルジェリア天然ガス施設襲撃、
- ③テロリストの意図通りに実行された「シャルリー・エブド社」襲撃、
- ④外国人観光客を狙ったバルドー博物館（チュニジア）襲撃、
- ⑤軍の戦闘行動に匹敵するパリ同時多発テロ+2016年ダッカ・レストラン襲撃事件を説明します。

パワーポイント例（自分の命を守るために7つの原則）

- | |
|---|
| <p>③ 小銃であれば、狙って射撃すれば命中する可能性が高い。
まず近場の物陰に隠れること、視界から消える工夫
狙って撃つまでには概ね3~4秒かかるので、3秒走って物陰に隠れる、また3秒走って物陰に隠れるなどして逃げることだ。</p> <p>④ 連発で射撃されると狙われればなかなか逃げ切れるものではない。だが、弾丸が入っている弾倉にある弾が尽きてしまい、弾倉を取り替えることが必要なので、武装勢力の視線が離れる時に逃げるチャンスが生まれる。</p> <p>⑤ 数人のテロリストが小銃で連射すれば、物陰に隠れて、音を出さないように潜んでいることだ。</p> <p>⑥ 自分から音や光を出さない。自分が助かりたかったら、「キャー」「わー」の声や、「バタバタ」の足音を出さない。
戦場などでは、誰もが声や音に敏感に反応する、そしてその方向を向いてしまう。視線を自分に向けさせない。</p> |
|---|

(3) 今後予想される IS の新たな脅威は

今後、ISは、保有する兵器の中から日本に持ち込める兵器を使用して、テロを実行する

可能性がある。IS は、対戦車ロケットや携帯地対空ミサイルを所有しており、日本にも持ち込むことが可能だ。

IS が保有する兵器の中から、日本に持ち込める兵器を使用すると

- 数個戦闘チームを編成
- 対戦車ロケット、対戦車ミサイルを使用したテロ
- 携帯地対空ミサイルによるテロ
- 化学剤（サリン、VX ガス、マスタードガス）散布によるテロ

(4) テロ対策のプロセス

ア. 現状のリスク分析

- ・テロ集団は、何か、どこにいるのか
- ・テロが起こり得る地域は、その規模は、どんなものか
- ・テロリストの緊要地形（侵攻経路のネック）や接近経路は

イ 過去のリスク分析

- ・自社に関係する過去のテロ事案を研究する
- ・リスクの原理・原則・根本原因を発見する
- ・現在の対策に生かせるものを抜粋する

ウ 3. 1と2からリスクの将来予測を行う

- ・いつ（どんな時に）どのようなテロが生起するか、規模は
- ・自社の事業のどのような影響があるかを検討する
 - ①敵の可能行動（リスク）の可能性を、いくつか列挙する
 - ②最も可能性が高いリスクを選ぶ
 - ③可能性が低くても、自社の事業に重大な影響を及ぼすリスクを選ぶ。①でないものもあれば、列挙する

エ リスクの将来予測から対策を列挙する

- ・具体的対策をいくつか列挙する
- ・それぞれの対策が十分か、不十分かを検討する
 - ①組織のこと
 - ②人のこと
 - ③装置（監視装置など）
 - ④情報収集機器

オ リスクの情報をいかに収集するか

- ・リスクの接近情報をいかにとるか
- ・シナリオ、図上研究により、敵（リスク）を察知する
- ・情報収集員の配置を検討する。偵察要員を決める
- ・総合的に情報を収集するために、収集組織を作る

- ・効果的な情報収集を行うために、情報収集計画を作成する
- ・情報収集には、いくつかのポイントに絞って集める
 - 情報主要素（EEI）を決定する
- ・住民の目を使う

カ 対策が実際に機能するか検討する

- ・図上研究を行い、一連の流れを通して、対策を検討する
- ・これで十分なのか、問題が残るのか

キ 緊急時の行動を検討する

- ・上記と同じ要領による

ク リスクの評価をどのようにするか

- ・リスクの段階区分を決めておく
- ・平常とどこが違うのか
- ・現場の偵察を行う。発見されないように。
- ・危険な情報はないか。疑問があれば、その理由が解明されなければ、危機だ。
- ・専門家の直観を働かせよ。
- ・専門家の意見を聞く
- ・住民の意見を聞く

2. 新たな IS の軍事的脅威への対応は

IS は、テロを実行した後に、逃げることを前提としていない。テロを実行すれば、その地で自爆するか射殺されることを覚悟していることが多いので、壮絶な様相になり死傷者が多くなる。

IS がチームでテロ襲撃を実行する場合には、成功の確率を上げるために、現地の下見や現地の地図や模型を使用して図上訓練を実施している形跡がある。場当たりの襲撃ではなく、かなり緻密に計画している。つまり、彼らは、特殊作戦部隊の兵士と同等の作戦が実行できるのだ。

だからこそ、対応する側も、警備員を配置することや監視装置を取り付けるだけでなく、効果的な対策を採るために、テロの可能行動を見積もって、図上研究を実施し、IS の攻撃を防ぐ対策をとらなければならない。

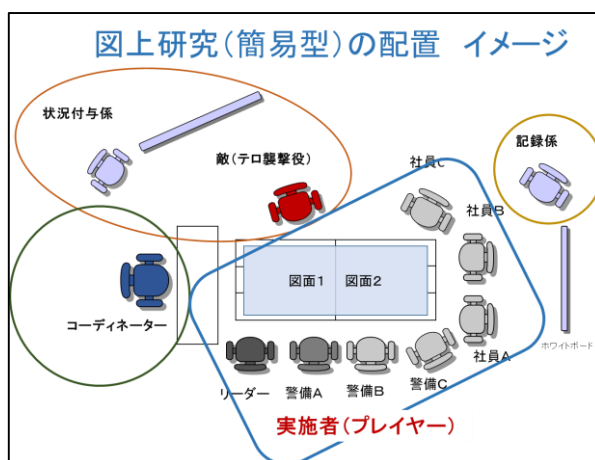
テロ対策は、国家、自治体、企業、個人毎に異なる。

図上訓練（研究）について

- 現代風な図上研究（訓練）イメージ
- 図上研究（簡易型）の配置

- なぜ、図上研究がいいのか
- 図上研究のイメージは
- 図上研究実施手順
- 状況判断の練成要領
- 図上訓練の効果
- **学校の現場では（最近始めました）**
 - ・ どんなどころで
 - ・ 実施した感想は

パワーポイント例



3. 北朝鮮軍の南侵シナリオ、対策も

- ・ 北朝鮮軍総攻撃のシナリオイメージは
- ・ 北朝鮮軍によるソウル侵攻のイメージは
- ・ 北朝鮮図上訓練のシナリオは

まとめ

企業として、過去のテロを研究して、自分の会社にはどのようなテロの脅威があるのかを考え、それらを踏まえて対応策を考え、そしてテロと警備を戦わせ、さらに図上で訓練を行い、企業の具体的な対応策や企業の管理者や社員の状況判断を訓練しておくべきです。企業の管理者や社員の自覚があるかないかで、テロを受けたときに、被害に大きな差がでてくる。この際、できれば専門家の指導があればなおよい。

参照文献：『自衛隊はISの脅威とどう戦うのか』-イスラム過激派の軍事的脅威にどう立ち向かうか（祥伝社）